



# Global mini

グローバル・ミニ



**特集**

フィールド報告 **P4**  
「未伝地に福音を！」



2023年短期宣教  
募集要項 **P5**



**特集**

教会の祝福と  
人々の救いのために **P2**

**連載**

MY JOURNEY  
Ex-OMerの歩み

私の心の中の物差し

**P3**



新OM船  
ドゥロス・ホープ号  
近況報告 **P6**

OMのミッションステートメント：私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです

# 教会の祝福と 人々の救いのために

船越信哉

2022年4月からOM日本新体制がスタートしました。この半年余り、主は多くの祝福を与えてくださいました。同時に失敗も経験しましたが、その中で主は大切なことを教え、OM日本に前進を与えてくださっています。

## OM日本の使命

- ・日本の教会の祝福になる
- ・日本人の救いのために用いられる

失敗を通して問われることがあります。それは「何が大切か」という本質です。この半年を通して、主はOM日本の使命をさらに明確にしてくださっています。私たちOM日本は、日本の教会を尊敬し、日本の教会に仕えたいと願います。主が私たちを日本の教会の祝福・喜びとして用いてくださること、また一人でも多くの日本人がイエスキリストを信じ天に名が記されることを願います。

## 使命を果たすために

使命を果たすために、主が教えてくださっている3つのことがあります。

①チームの構築、②新人宣教師のトレーニング、③exOMerとの協力です。

### ①チームの構築

OM日本が大切にしていることは、『チームで宣教する』ことです。

私たちは単独で宣教師を送ることはありません。必ず**チームで宣教師を送り、現地の教会に仕え、宣教活動を行っていきたい**と願っています。

『ひとりのスーパースター』ではなく、『ごく平凡な私たち』がチームとして用いられる。まさに聖書の原則の通りです。「イエスさまを愛して宣教したい!」と願う人が誰でも加わることができ、チームで宣教する。前任のスティープン・スミスドルフ氏が大切にしてきたOM日本の価値観です。

現在、OM日本には**10カ国以上から50名近くのチームメイトが在籍**しています。様々な文化や考え方が織り混ざる中、お互いを理解し尊重しながらイエスさまを中心にチームで働きをします。

また、チームで働きをする上で大切なものは、「リーダー」の存在です。

**リーダーは立場ではなく「役割」です。リーダーシップは人々を祝福するための「道具」**です。それをどのよう

に使うか。私たち罪人にとってリーダーとなることは、人々の祝福になり得ると同時に、様々な罪の誘惑や罠、攻撃などの危険も伴います。

私たちは主の前にへりくだり、「仕えるリーダーになりたい」と心から願っています。現在、**4つの地区、8つのチーム**があります。

**4人の地区リーダー、8人のチームリーダー**が立てられています。将来、OM日本からさらに新しいリーダーたちが起こされること。そして、**新しい地区へ宣教拡大**されることを願っています。

### ②新人宣教師のトレーニング

2022年10月から、新しく『**新人宣教師トレーニング**』が三重県鈴鹿市でスタートしました。

主はOM宣教師の井上希さんを派遣国から日本に送り返してくださり、トレーナーとして立てられ、準備が進められて来ました。

第一回目の『新人宣教師トレーニング』は、シンガポールから夫婦、マレーシアから男性、そしてアメリカから韓国系女性が参加しています。10月から12月まで、**3ヶ月のトレーニング**が行われます。日本語の勉強を毎日行います。また『Knowing Self(自分自身を知る)』『Knowing Team(チームを知る)』『Knowing Japan(日本を知る)』『Ready to Serve(仕える準備)』



三重県のOM日本トレーニングセンターの外観がYouTubeで視聴できます  
日本語／英語字幕  
時間：1分



の段階に分けてトレーニングを行っています。

そして1月には、1ヶ月のビジョン・トリップがあります。これはOM日本の8つのチームを訪問し、どのような働きが行われているかを知るため、そして主が自分をどこに召しておられるかを知る訪問となります。

### ③exOMerとの協力

「exOMer」とは、かつてOMを通して宣教に参加していた人たちのことです。

心を燃やして世界宣教に参加された日本人がたくさんおられます。OM日本はそんなexOMerの**お一人お一人を尊敬し、また与えられた関係を大切にしたい**と願っています。

コロナも少しずつ落ち着きを見せ、移動や対面での集会が可能になってきました。OM日本は今後、exOMerとの協力を願っています。それは、OM日本に与えられている**使命「日本の教会の祝福となる」**



3ヶ月に一度のオンライン祈禱会では「過去」「現在」「未来」のOMerたちが集う



## 対面での『exOMer集会』 を計画しています

2023年の夏頃、exOMerの方々と顔と顔を合わせ、主が与えてくださる世界宣教のビジョンと情熱を共に受け取りたいと心から願っています。またOMインターナショナルからゲストを迎えることができれば！と計画しています。この『exOMer集会』には多くの協力が必要です。「協力したい！」といてくださる方は、ぜひ船越信哉までご連絡ください。  
※ [shinya.funakoshi@om.org](mailto:shinya.funakoshi@om.org)

「日本人の救いのために用いられる」ことが果たされ、主の御名があがめられるためです。日本各地にexOMerがおられます。その方々と協力し、日本国内での宣教が前進できるよう、お祈りください。

①チームの構築、②新人宣教師のトレーニング、③exOMerとの協力。

主から教えられているこの3つを大切にしながら、OM日本は「日本の教会の祝福となり」「日本人の救いを勝ち取っていく」宣教団体へ、さらに整えられていきたいと願っています。引き続きOM日本のためにお祈りください。

コンサイスバイブル・アプリをまだイエス様を信じていないご家族や友人に送ることで、福音を広める活動の一環になることを願います。この時代に与えられた一つの素晴らしい宣教の方法です。私たちOM日本も、このアプリを通して一人でも多くの日本人がみことばに触れることができることを願っています。



GLOBAL BIBLE INITIATIVE

HOLY BIBLE  
THE  
CONCISE  
BIBLE

## MY JOURNEY

### Ex-OMerの歩み

以前OM宣教に関わった人たちの、  
帰国後の歩みをテーマにしています。

## 私の心の中の物差し

E K

私は**ムスリムの人々が暮らすT国**で4年間、奉仕しました。最初は主に現地語と文化の習得に取り組みました。その後、現地教会へのサポート、また大学での**日本語教育に従事しながら学生たちに福音を伝える**努力をしていました。

OMチームは互いに励まし合い、色々な働きを展開していました、しかし**日本人は私一人**だったため、チームメイトは誰も私の大学での働きを助けられず、**困難がある時はとても孤独**でした。ある日、チームの半数の者に**国外退去命令**が出ました。みなひどく動揺しました。なんとかこの危機は乗り越えられたものの、自分の直属のチームが無くなってしまい、私も一度**仕切り直そうと日本に帰国**することにしました。

帰国後の一年間、支援して下さった教会を訪問し、T国での働きと状況を報告しました。宣教報告の旅はとても有意義でした。しかしいくつも教会を訪問するうちに、私は日本の教会の**伝統的な礼拝形式に違和感を感じるようになり、批判する気持ちが強くなって**いきました。「日本の教会を批判する、私の心の中の物差しは何なのだろう…」悩む私に神学校での学びの機会が与えられ、2年間学ぶことができました。教授のほとんどは外国人、授業もバイリンガル。生徒にも外国人がいて、私が再び日本に慣れるまでの期間、**親しくなった彼らとの温かい関係に支えられました**。宣教地のT国では実践が優先されがちで、じっくり聖書を学ぶ機会が少なかったため、神様が私を整えるために学ぶ期間を与えてくださったのだと思いました。また、所属教会では特に**青年達との交わりに支えられ、身体だけでなく心も、徐々に日本に**戻ることができました。

帰国後、唯一さみしく思ったことは、T国の人々に会えないこと、そして現地語を理解する人が周りに誰もいないことでした。しかしその後、**神様が日本への留学生受け入れの門を広げて**くださいました。そしてかつての日本語教室の教え子たちが**幾人も日本に**来ることができ、再会することができました。

帰国してから15年。結婚し、夫が牧師になり、今は子育て真っ最中です。今思わされていることは「**日本の宣教、そして教会形成は難しい**」ということです。しかし日々祈りの中で神様に聞き、兄弟姉妹と共に取り組んでいこうと励んでいます。

3

さあ、みんなで広めよう。みことばを。  
神のことばはますます広まり、増えていった。(新約聖書より)

## 「コンサイスバイブル」アプリ

聖書を読んだことのない方が聖書の概要と中心テーマを理解出来るように、読みやすくまとめられた無料アプリです。  
ノンクリスチャンのご家族やご友人に、聖書の全体像をつかんでいただくことができ、そこからディスカッションも始めやすく、自信をもってシェアできるアプリです。



GLOBAL BIBLE INITIATIVE (GBI)は米国テネシー州ナッシュビル市に拠点を置き、聖書翻訳及び世界宣教を目的とした団体で、現在、米国を始めグローバル範囲で活動を展開しています。<https://gbi.llc>をご参照ください。引用聖句は、GBIが翻訳し、著作権を有しています。翻訳は聖書全体ではなく一部になります。

広告欄

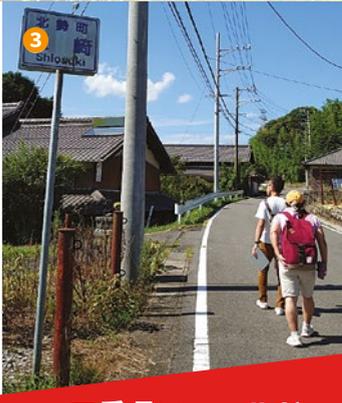
郵送料のコスト負担軽減のために広告欄をもうけました。広告掲載はOM日本事務局 [info.jp@om.org](mailto:info.jp@om.org) までご連絡を



# 2022-AUG.19-21 いなべ市・平安の子さがし

実りは多いが、働き手が少ない。  
だから、収穫の主に、収穫のために  
働き手を送ってくださる様に祈りなさい。  
さあ、行きなさい。  
ルカ10章2b-3a

- ① イエス様を受け入れた子供たち
- ② 毎月の祈祷登山をするいなべ出身の横田さん
- ③④ どこにでも行きます
- ⑤ イオンモールでの伝道前の指導と祈り
- ⑥ 全国で平安の子のリードをする播牧師



## 三重県フィールドレポート

# 「未伝地に福音を！」

近藤 健二



私たちOM三重チームは今年、二つの伝道活動イベントを開催しました。

① 3月、三重県鈴鹿市西部に位置する鈴峰地区において、地元クリスチャン6人、県外からの応援6人で、計4日間の伝道週間を持ちました。クリスチャンで救いと信仰をはっきりと持っている方なら、**教団教派を問わず参加可能な活動**でした。まず、それぞれが411という1時間のトレーニングを受けた後、小グループに分かれて出発しました。昼間は鈴峰地区の**農村集落を歩いて回りながら、祈り**、または聞いてくださる方に**信仰の証やイエスの救い**の話をしました。夜は**市内のイオンモール**で同じ方法で伝道をしました。

② 8月の酷暑の中、三重県最北端の**教会未設置エリア**である「いなべ市」で、「平安の子さがし」という伝道を3日間行いました。三重県を含めた**7つの県**から、計**30人**が集まりました。3月と同じように、明確な救いと信仰のあるクリスチャンなら所属教会を問わずに参加可能にしました。**宣教師も3つの団体**から参加していただきました。TCU、KBI、CBSの神学生たちも応援に来てくれました。農村集落の家を一軒一軒訪ねて、家族の祝福または病気のため、祈りのオファーをし、聞いてくれる方にはイエスの救いを語りました。夜は**近隣のイオンモールにて伝道**を続けました。3日間の活動で9人が主を救い主として受け入れました。

当初、コロナ禍で都会の人が田舎に移動、また家々を訪問することに**拒絶や反感**などあるのではないかと、思いな

がらの参加でした。しかし実際に訪問伝道が始まると、それは**全て取り越し苦労だったことに気付か**されました。そして再訪問にOKをくれる方も多数おられたことに、本当に励ましを受けました。

今回の2つの伝道で、「信じた人の数」以外での**メリットを3つ**書かせていただきます。

**1 歴史的な見解から：**歴史上今まで一度も**教会がない地域**であり、檀家のお家もたくさんある日本の伝統宗教が**びこる地域**において、「福音を語る」機会が与えられました。これはその地域の歴史上初めてかもしれません。また**鈴峰地区、いなべ市と両地域において、フォローアップをする地元の人員**が存在していることに更に感謝します。

**2 クリスチャンたちのコラボ：**三重県は超教派集會やカンファレンスなどが無いマイナーな県です。その三重県で、**伝道に思いを持つクリスチャンが教団教派を超えて集まって共に活動**できました。これは壁に風穴を開けたように思いました。**宣教団体も、OM宣教師の他2つの団体から参加。神学校は3校から神学生が参加**してくれたのは更なる感謝でした。

**3 宣教の働きの広さと深さ：**県内のクリスチャンで、「歩いてみんなと集落を回ることができない」という人達も、**県外の方の宿泊のために家を開放したり、みなさんの食事の用意をしたりして、それぞれのできることで伝道活動に協力**しました。これは**神の国の建設作業の「働きの広さ」を知る**ことができる素晴らしい機会を得られたと思いました。

また昨今、日本国内においての伝道は9割以上、教会堂内のイベントに人を招く、いわゆる「**勧誘&コンサート形式**」がほとんど。今回の伝道のような「**実際に出て行ってみことばを語る**」という働きができたのは、**宣教の「働きの深さ」を知る**貴重な経験だったと思いました。

コロナ禍の「**関わらない社会**」の習慣の中で、ますます魂と精神の飢え乾きが高まり、イエスキリストこそが希望であることを世に伝えねばと思われています。三重チームとしては今後ともこのような活動を続けていこうと思っています。お祈りに覚えてくれたら感謝です。

## 平安の子さがしとは？

現在まで  
北海道／青森県→高知県→  
山形県→熊本県→奈良県→  
三重県→福島県  
の各地にて開催



平安の子探し（英語名 "Finding the Person of Peace"）はアジアの多数の国で長年おこなわれ、実証されてきた伝道の方法です。日本ではアジアアクセス（旧JCGI）が声かけをして、地元の牧師会、宣教会、また宣教団体とのコラボにより開催されています。



# STM短期宣教募集要項

写真：オフ・ザ・グリッド NZ より。10日間、スマホやメディア断食しながら創造された素晴らしい自然を体験する

## セルビア共和国でのムスリム難民の支援

📍 セルビア共和国 日程 2023年2月10日～2月17日  
応募締切 2023年1月3日

- 📄 225 イギリスポンド
- ☑️ 18-65歳 基本的な英語は必須。

1週間

- ❶ クロアチアとの国境付近の高速道路沿いにある、Adaševci Refugee Camp という難民キャンプで活動。キャンプ内にはOMの「ティーテント」があり、難民の方々がそこでお茶やコーヒーを飲んだり一緒に卓球などのゲームをしたり、リラックスしておしゃべりしたりできるスペースになっています。
- ❷ 奉仕内容：ティーテントでの飲み物の提供、テント周辺の清掃また洗濯などの働きを通して難民の方々と交流し、キリストの愛を示す働きです。テント運営の働きの中で難民の方々と共に時間を過ごし、スポーツをしたり、ゲームやクラフトをしたり、語学レッスンをしたりする機会もあります。共に過ごす中でイエス・キリストへの信仰を伝えるチャンスがあります。  
\*ボランティアは常時募集しますので、2月以降もお問い合わせください。

## フランスにて教会開拓の支援

📍 フランス 日程 2023年4月1日～4月9日  
応募締切 2023年2月20日

- 📄 265 イギリスポンド
- ☑️ 18以上 フランス語不要、英語は必須。

1週間

- ❶ フランスにある2つの教会の開拓伝道を支援。近隣の町に新しい教会が建つことを信じて出かけて行き、イエスの愛を分かち合います。
- ❷ 奉仕内容：このアウトリーチでは、教会が地域社会との良い関係を築き、福音を分かち合えるよう手伝います。パリ郊外のアルパジョン教会では、隣町に教会を建てる準備としてプレイヤーウォーク（祈りながら歩く）や街頭伝道など、地域の人々が教会に関心を持ち心を開くための働きをします。OMのチームが去った後も、このアウトリーチウィークの効果が継続することを願い、取り組みます。毎日の働きの前に、共に祈り礼拝する時間をもちます。この時間を通して神様がまず私たちに触れ、変えてくださることを求めて一日を始めます。

## オフ・ザ・グリッド NZ (スポーツ弟子訓練)

📍 ニュージーランド 日程 2023年4月10日～4月20日  
応募締切 2023年2月24日

- 📄 555 イギリスポンド
- ☑️ 18-28歳 基本的な英会話能力必要

10日間

- ❶ 「オフ・ザ・グリッド NZ」ではニュージーランドの奥地で神様の言葉を、主の使命に生きる人生を、探求するものです。このプログラムは、メンタリング&弟子訓練・聖書研究&リーダーシップ・トレーニング・アウトドア・アドベンチャー&メディア断食
- ❷ 活動内容：・18歳～28歳のインターナショナルチーム（8名）と共に様々な体験をする。・聖書の学びと祈りによってクリスチャンとしての信仰を確認する。・イエス様にある希望を分かち合うための自信を身につける。・アウトドア・アドベンチャー（バックパッキング、カヤック、キャンプ）を通して聖書的なコミュニティを経験し、自分をより深く知る。  
\*Off The GRIDは肉体的に厳しいものです。厳しい環境の中、何日もかけてハイキングとカヤックをします。体調が整っていること、また一日中動き回ることのできる体力が必要です。健康は必須です。

## STEP: OM船口ゴスホープ号に乗船

📍 ロゴスホープ乗船 日程 2023年6月1日～8月16日  
応募締切 2023年4月5日

- 📄 1240 イギリスポンド
- ☑️ 18-39歳、基本的な英会話能力は必要

2ヶ月半

- ❶ STEP (Short Term Exposure Programme) とは、OM宣教船口ゴスホープ号への2ヶ月半の乗船を体験できるユニークなプログラムです。船上での生活はテンポが速く時に難しさもありますが、奉仕の心、学ぶ姿勢、柔軟性を持ってぜひご参加ください！一生に一度の素晴らしい経験になります。
- ❷ 活動内容：さまざまな国の人々と共に生活し働くことで、異文化でのクリスチャンの働き人に必要なことを直に経験することができます。日中は船内のいずれかの部署で実務を行います（週40時間/1日8時間）。週に1日はミニストリー Dayで、船上でのプログラムや陸上でのイベントなど、指定されたミニストリーに参加します（COVID-19の制約が適用されます）。基本的な英会話能力は必要。

## アメリカ・OM船の書庫での働きと学び

📍 アメリカ 日程 2023年1月より、毎月受け入れ可能  
応募締切 開始月2ヶ月前まで

- 📄 1095 イギリスポンド
- ☑️ 18歳以上、英語不得意な方も参加可能

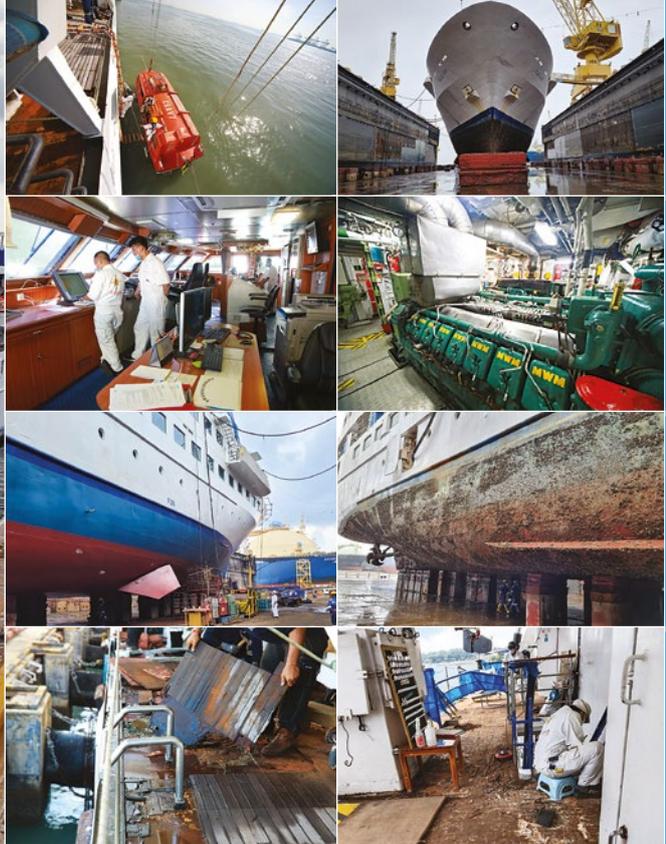
3ヶ月間

- ❶ アメリカ・サウスカロライナ州のフローレンスにあるOMシッパス・インターナショナルのキャンパスにて、神様に仕え訓練を受けることのできるプログラムです。宣教の経験がほとんどない人や、英語を上達させたい人に最適です。異文化への、また「宣教」と「教会動員」についてのより深い理解を得る機会を提供します。
- ❷ 奉仕内容：ミニストリーセンターでの本の仕分け・梱包作業。・毎週行われるデボーション、祈り会、その他のチームイベントなどOMシッパス フローレンスのチーム生活に完全参加します。・アメリカ文化を体験。・毎週木曜日行われるミッション&モーバイゼーションクラスでは、宣教をより理解し、異文化とより良く関わるための基礎知識を学びます。・地元の教会を訪問、参加します。・英語の訓練ができます。



写真：セルビア国内にある難民キャンプの支援活動の様子。ティーハウス、卓球、サッカー、洗濯や掃除の奉仕を通じてキリストの愛を伝える活動。





# 新OM船 ドゥロス・ホープ号

近況報告

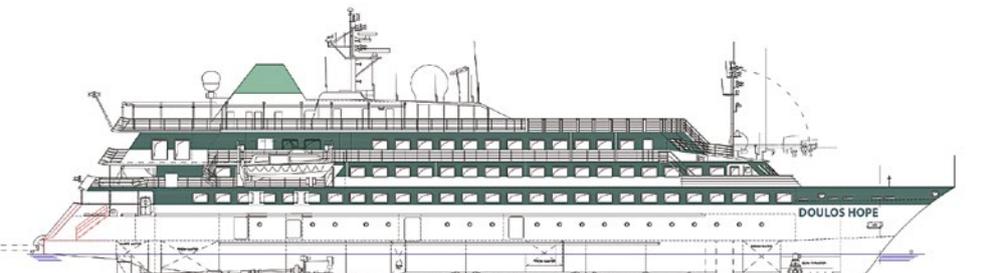
## OM船ドゥロス・ホープ号の紹介

ドゥロス・ホープとは「希望の奉仕者(希望のために仕える者)」。2023年にいよいよ就航の予定です。この船はOM5隻目の船となり、姉妹船であるロゴスホープ号と共に世界中の港で「知識・支援・希望」を分かち合います。

ドゥロス・ホープ号は、より地域に密着した宣教船の第一号です。まだ神の愛を知らない人々の70%が住むとされる東南アジア地域をメインに奉仕する予定です。

現在、シンガポールにて必要な整備がなされていますが、技術的な準備だけでなく、船員、そして祈りと資金援助者が必要となります。どうか続けてお祈りください。

全長:85.5m トン数:3370 クルー数:146名



6

## 行こう

### ドゥロス・ホープ号

- 📍 アジア全域 📅 1年間または2年間
- 👤 ロゴスホープ号よりも小さい5階建てで、乗組員は約140人。船内ではIT、エンジニア、コミュニケーション、ギャラリー(厨房)、ブックフェアなど様々な役割があり、自分の能力や経験、賜物を活かした奉仕の機会が多くあります。多国籍の兄弟姉妹と共に船での宣教を経験してみたい方、ぜひOM日本事務局にお問い合わせください!

## 祈ろう



Facebook

- ・改修工事が無事に終わり、2023年に主のご用のために用いられるように。
- ・世界中の若者が動員され、10/40ウインドウにおける宣教の働きに用いられるよう。

OM (Operation Mobilisation) は、世界約110カ国で3200名が活動している超教派の国際的宣教団体です。

・OMは世界宣教のために奉仕者の育成と、最も福音が伝えられていない地域への伝道、そしてイエスに従うものによる生き生きとし

・たコミュニティが形づくられ、それらが育成されていくことを目標としています。

## OM日本・OM Japan

📍 [www.omjapan.org](http://www.omjapan.org) 📱 [fb.me/omjapan](https://fb.me/omjapan) 📧 [info.jp@om.org](mailto:info.jp@om.org)

☎ +81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX) 📍 〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394

📮 郵便振替口座 02100-0-24998 加入者名「OM日本事務局」

OM日本ニュース 第89号 2023年冬号

発行人: 船越信哉

編集&デザイン: 近藤健二

